いまどきの歴史

**新聞をななめ読み、
週刊誌を読み飛ばし、
倍速モードでニュースを見れば、
よくわかる、すぐわかる、最近の歴史。**

【恐怖】名前のインパクトが強烈な「人食い細菌」の感染率

イギリスの大衆誌に『ペスト以来の大疾病がイギリスに上陸』という見出しが踊り、デイリースター紙の一面に『私は人食い細菌に顔を食べられました』という大きな見出しが掲載されて以来、エイズ以上の疾病が発生したというニュースが全世界を駆け巡った。この細菌とは、猛毒性のA群溶連菌。実はこの細菌、本来はごくありふれた細菌の一種で、下痢などの初期症状なら抗生物質の投与で殺せるもの。だが、やっかいなのは免疫がない人の場合。そういった人がこの菌に侵されると、短期間で症状が悪化し、筋肉組織が蝕まれ、最悪の時には壊死することがあるという。イギリスでは今年15件の症例が報告され、そのうち11人が死亡。そのため「恐怖の細菌が人間を体の内側から食べ尽くす」というSFまがいのイメージがつくられ、マスコミがそれに飛びついたのが、今回の世界的騒動の原因らしい。実際にこの細菌に侵される確率はエイズよりも低く、専門家によると「落雷を受けるのと同じかそれよりも低い」ということ。世紀末が近づき、オカルトやSFへの関心は高まっているけれど、真実の報道を主とする新聞のいいかげんな報道の方が、現代は細菌よりもよっぽど恐怖!?

【健康】数字だけではわからない いい食品、悪い食品

最近は健康ブームは何でもカロリーを抑える傾向にあるが、カロリーばかりにとらわれて中身への関心を忘れると反対に健康を害することだってある。そのいい例がバターとマーガリン。マーガリンの方がバターよりカロリーが低くて体によいと思っている人は意外と多いはず。しかし、マーガリンの方が植物油を凝固させる水素添加の過程で、有害な脂肪酸が生まれ、これが悪玉コレステロールを増やす要因となることが、アメリカのハーバード大の研究調査によって報告された。それによると、心臓病を起こすリスクは肉や乳製品に含まれる飽和脂肪酸よりも、マーガリンの脂肪酸の方がより高いらしい。米食品業界はこの報告に異論を唱えているが、米心臓協議会は水素添加の過程が少ないものならば良いとしている。「じゃあマーガリンを食べなければいい」と思う人もいるかもしれないが、こういった脂肪酸はポテトチップなどにも含まれている。健康ブームといわれるようになって、低カロリーなら健康食品と思われがちだが、本当に健康な体を作るのは食品の中身の成分。だから低カロリーを気にするより、食べ物自体の成分と摂取量を気にすることが大切なのだ。キミは知ってた?

【スポーツ】技術、戦術だけではない サンフレッチェの3本目の矢

Jリーグの1stステージが、サンフレッチェ広島の優勝で終わったのは、皆さんもご存知の通り。しかし、シーズン前にこのチームが優勝するなんて、解説者はもとより地元サポーターですら思ってもいなかったことらしい。昨年は成績も勝率5割ライン。可もなく不可もなくといったこのチームが今年大変身を成し遂げた要因はいろいろとあるのだが、中でも注目したいのはメンタルトレーニングだ。今までの日本のプロスポーツ界でメンタルトレーニングといえば、試合前に相手を想定して精神的闘志を高めるイメージトレーニングが主流。しかし、サンフレッチェの場合は、闘志を高めるどころか、シンクロエナジャイザーや環境音楽などを用いて精神をリラックスさせるメンタルトレーニングをしていたという。つまり、サンフレッチェ大変身のポイントは、ゲームや相手に対する闘志より、平常心を保つことにあったらしい。「どんな相手、どんな状況でも自分たちのペースでいれば最高の力は出せる。いつも最高の力を出せたから優勝できた」とバクスター監督は言っていた。この考えを欲望の闘志が空回りしている日本の政治家たちが知れば、きっと日本はもっといい国になるはずだ。

瞑想にふけって勝っちゃった

いまどき♂の

そんなに騒がなくたって、行くときゃ行くんだってば

【ギャンブル】
勝った負けたと騒ぐじゃないぜ 馬だって緊張もすりゃ興奮もする

バブル崩壊後も、年々売上記録を更新して笑いが止まらないＪＲＡ（日本中央競馬会）。今年も若いファン獲得のためＣＭに時任三郎、真田広之、中井貴一らを使い、ファンの裾野は好調に広がっている。しかし、このファン拡大が原因で、ＪＲＡ自身が思わぬ苦労を強いられている。それは、若い観客が増えたために名物になってしまった大歓声。大きなレースがある時、発走前に必ず湧き起こるあの大歓声が馬に悪影響を与えていると、騎手や調教師、果ては古くからの競馬ファンからも、クレームを受けているというのだ。ＪＲＡもそういったクレームに対処するため、本馬場入場ルートを変更したり、「お静かに」というプレートを警備員に持たせるなど努力はしたが、効果はなし。客あっての業界だけに、若いファンを追い出すこともできず、今は八方塞がりの状態。競馬ファンを前に岡部幸雄騎手が「敏感なサラブレッドのため、節度とタイミングを得た声援をお願いします」と異例の応援マナーを訴えるほど深刻な問題となっている。若い競馬ファンの皆さん、大声援もいいけど競馬の発祥はあくまで紳士のお遊び。節度ある成人の遊びなんだから、マナーは十分に守りましょう。

【国際】
我々の良識が問われている 日本国内の北朝鮮問題

北朝鮮の核問題は「日本がどのような制裁をするのか？」ということが、国際間で益々深刻化する状況にある。しかし、これはあくまでも国外の問題。ほとんど関係のない国内の在日朝鮮人がこの問題の影響で、飛んだとばっちりを受けているのをご存知だろうか。今、日本全国にある朝鮮学校の生徒は登下校の際、心ない日本人の嫌がらせという名の“制裁”を受けているというのだ。確かに在日朝鮮人は強い愛国心をもっているが、そのほとんどは日本生まれの日本育ち。同じ日本で育った仲間なのだ。だから国籍が異なるという、ただそれだけの理由で、彼らに嫌がらせをするなんて、情けないマネだけは止めて欲しい。それよりも仮にもアジアのリーダーといわれ、国際的先進国といわれる日本人なのだから、チンケな島国根性を捨て、よりグローバルな思考で仲良くすべきなのだ。そういった意味からも、国土計画法違反の疑いで京都朝鮮学園を家宅捜索した京都府警はそれについて「市役所の電算機の検索ミス」などと役所の責任にして欲しくなかった。いくら『ゴメンですんだら警察はいらない』といわれていても警察が自ら島国根性を出していたら、日本に国際化などある訳ない。

【経済】
景気が晴れようが曇ろうが リストラは続くよどこまでも

長かった不況のトンネルから、最近やっと景気回復の光明が見え始めているというのに、人員削減・リストラの波はまだまだ押し寄せるらしい。共同通信社が今年三月期決算の主要一〇〇社を対象に実施したアンケートによると、各企業はこれからも円高や内外の激しい価格競争に対応するため、国際水準から見て生産性が低いとされるホワイトカラーを中心にさらに雇用調整を進め、企業体質強化を図る姿勢があると発表した。中でも人員削減の姿勢は、鉄鋼、非鉄金属、繊維、化学、運輸、通信業界でこれからも強められ、社内部門別では、事務部門、工場などの製造部門、管理職の順で従業員を減らす計画がなされているという。唯一販売・営業部門は各企業とも、これからは人員を増員する予定と答えているが、これは不況期に落ち込んだ売上げの回復を目指すためのもの。いくら景気回復の兆しが見えても、好景気とならない限り、サラリーマンには人員削減・リストラの恐怖がまだまだついて回るようだ。オレは上司と仲がいいから大丈夫だと思っているアナタ。その上司が飛んだり、リストラにかかるかもしれないので、媚びを売るより自分の仕事の成果を挙げた方がいいですよ。

レンタルテレホン
月々2,000円
保証金不要
（解約自由）
（フリーダイヤル通話料無料）
0120-280-280
ベストテレホンセンター
京都市北区小山西元町2番地